

熊本県の中で唯一離島の町“御所浦”というところ

九州の真ん中に位置します熊本県。その熊本県の一番西に位置し、長崎県とも鹿児島県ともすぐ近くにある天草。

この天草は、昭和41年に天草五橋と言う橋によって九州本土と陸続きになり、それまで船でしか行き来できなかった島が大きく変わりはじめました。しかし、天草の中で一つの町だけが取り残されてしまいました。この島は今でも離島の町として、定期船か海上タクシーという船を使わないと、行き来することができません。台風が来れば、どんなに大事な用事があっても、船が動かないためどこにも行くことも出来ません。島の人口は4000人くらいで、島の中に小さな店はありますが、コンビニのような洒落たお店などありません。島の中を走るタクシーも2台ほどしかありません。もちろんバスなんかありません。しかし、島の人たちは生活するのに、なにも不便そうにはしていないのです。もちろん島だから魚はふんだんにありますし、野菜は少ししかない畑で育てています。そこで生活している人たちは、みんな明るいのです。

そんな島に、あるとき転機が訪れました。

この島の人々が住んでいないところに採石場がありますが、その採石場から白亜紀の恐竜の化石が見つかったのです。このことが大きく新聞にも取り上げられ、一躍有名な町になりました。

これがきっかけとなって、この島に修学旅行生を呼び込もうといった大胆な動きが始まりました。そして、この誘致活動を始めて3年ほどしたころ、岐阜県から修学旅行生120名がやって来たのです。初めて御所浦を訪れてくれたのは、岐阜県の中でも山の中の学校で、漁船を少しだけ大きくしたような海上タクシーに乗るのも初めてという生徒たちでした。

船に乗って走ること30分、御所浦に初めての修学旅行生が訪れた瞬間でした。島の人たちはもちろん初めての経験なので、わくわくドキドキの様子でした。船が見えた瞬間から、大きく手を振って出迎えている姿がいくつもありました。出迎えるの港は、たくさんの大漁旗で飾られ、まるで正月を迎える風景でした。船が着岸すると、緊張した子供たちと、それを笑顔で迎える地元の人たちとでいっぺんに港は賑やかになりました。初上陸した子供たちは、地元御所浦中学校の生徒が叩く太鼓で歓迎され、町の人たちからたくさんの歓迎のあいさつを受け、これは、最初の大きな感動体験となりました。

このあと、地元の案内役の人たちと、島に入って最初の体験である化石発掘をしながら、なぜこの場所にこんなに多くの貝殻の化石があるのかなどについての説明を受け、石をハンマーで割ると出てくる貝殻の化石を見つけては、大喜びしてみんなで見せあいしている姿は、本当に楽しそうでした。

続いて、宿泊施設になっている旅館へと移動して、島ならではの「魚さばき体験」を行いました。旅館のおばちゃんの指導を受けながら、恐る恐る魚と格闘していました。そして、自分たちでさばいたアジやイワシをきれいに水で洗って、それが自分たちの夕食の一品として出てきたときには、「この魚は、オレが刺身にしたんだぞ」と、誇らしげに自慢している姿が輝いていました。

次の日は早朝より、御所浦に昔から伝わる“とんとこ漁”という漁法の体験をして、巻き上げられる網の中に入った鯛やチヌやイカなどに歓声をあげていました。この“とんとこ漁”と言うのは、一つの小さな漁船に夫婦二人が乗り込んで行う漁で、夫婦二人の息が合わないと魚をとることは出来ません。

ここでは、家族の大切さと生徒たちに対する、漁師さんの優しさにふれることができました。この体験が終わると、地元漁協の人たちが獲れた魚をいち早く無人島へ運んで、刺身やバーベキュー用にと調理してくれていました。ここでも、漁協の人の他に婦人会の人たちによる、島ならではの温かなもてなしに、生徒たちの顔もにこやかで、大きな笑い声も起こりました。

楽しいバーベキューの昼食が終わると、いよいよ島とお別れのときです。泊まった旅館の女将さん、化石体験を案内してくれた人、とんとこ漁に連れて行ってくれた漁師さん、バーベキューの準備をしてくれた人たちなど、島中総出で迎えてくれた人たちの見送りです。一泊二日の短い時間の中で、御所浦でしか体験できない、島で生活する人の温かさ、優しさ、思いやりを胸に、島に来るとき初めて乗った海上タクシーに乗り、島の人たちとの笑顔と涙のなかで生徒たちは帰って行きました。

最後に生徒たちはこんな言葉を残してくれました。

「あんなに人に優しくしてもらえたこと、料理がすごくおいしかったこと、さしみの下ごしらえをしたこと、漁船に乗って魚を見たこと、すべてが初体験だったけど、全部がいい思い出になった。一度しかない修学旅行にふさわしいものだったと思う。」(女子)

「化石発掘をして貝の化石を見つけました。旅館では魚をさばいたとき、初めはエ～って感じたけど、なんかちょっと感動した。御所浦の人たちは、みんなやさしい人ばかりですごく楽しかったです。」(女子)

「バーベキューでタコが生きたまま食べたのは初めてだったけど、とてもおいしかった。お別れのとき、島の人にも泣いていたし、僕も泣きそうなくらい別れがつかった。」(男子)

「この修学旅行で一番心に残ったことは、島の人たちでした。あたたかく迎えてくれて、2日間はとても心地よかったです。」(男子)

「島の人がすごく優しくしてくださって、人のあたたかさを感じることができました。島で学んだことをこれから生かしていきたいです。」(男子)

(天草プリンスホテル 國武 利行)